平成 30 年度第２回逗子市文化振興基本計画策定・推進会議　議事録

■日時　　平成 31 年３月 19 日（火）午後３時～午後４時 30 分
■場所　　市役所第２会議室
■出席者　（敬称略、順不同）
（会長）渡邉忠貴、森谷紀子、山口歓三、長坂祐司、森川いつみ、田中肇、
及川佳寿美、藤城由季、黒川恭祐
■欠席者　　小谷洋一、七海耕一、利根川博
■事務局　　文化スポーツ課：阿万野課長、土屋係長、鬼原主事、森主事
■会議の公開・非公開　　公開
■傍聴人の有無　　０人
■記録　　森主事　平成 31 年３月 19 日作成

■議題
（１）平成 31 年度の文化振興施策について
（２）逗子アートフェスティバル 2018 の報告及び逗子アートフェスティバル 2019 の方向性について
（３）その他

■当日配付資料
・会議次第
・名簿
・参考資料１　逗子アートフェスティバル 2018 ガイドブック
・参考資料２　平成 30 年度第２回まちづくりネットワーク会議 山口メンバー報告

■議事

１　開　会

【配付資料の確認】

【出欠の確認】

・小谷メンバー、七海メンバー、利根川メンバー　欠席。

＜事務局＞

本日の議題について、１点目は「平成 31 年度の文化振興施策」について、来年度の文化振興に係る予算について事務局から説明する。

２点目は、「逗子アートフェスティバル 2018」の報告及び「逗子アートフェスティバル 2019」の方向性について、事務局から説明する。

また、その他として、10 月 13 日（土）に開催された「まちづくりネットワーク会議」について、参加した山口メンバー及び長坂メンバーから状況の報告をお願いする。加えて、「逗子フォト」事業の進捗について、事務局から現状を説明する。

ここからの進行、議長は会長にお願いする。

２　議　題

（１）平成 31 年度の文化振興施策について

＜会長＞

桐ケ谷市長に代わったが、文化振興について基本的には平井市政の方針を継続するとのことである。

議題１の「平成 31 年度の文化振興施策」について、事務局から説明をお願いする。

＜事務局＞

平成 31 年度の文化振興施策予算については、財政対策プログラムの方針が継続され、逗子アートフェスティバル（以下「ZAF」という。）に係る財政的支援は、平成 30 年度と同様にゼロである。

ZAF 等のイベントについては、市民と行政、商工会・観光協会等と連携して、まち全体が元気で賑やかになるよう取り組んでいきたい。予算はない中で、広報ずしやホームページ等の広報活動の支援や公共施設の予約等、できる限りの支援をしていく。

逗子文化プラザホール（以下「ホール」という。）の指定管理料については、消費増税分を除いて平成 30 年度と同水準である。自主文化事業は、工夫を凝らして様々な事業を実施する。子どもたちが伝統芸能等に触れる機会を提供するアウトリーチ活動（アート便）は継続する。新たな取り組みとして、市立中学校の吹奏楽部に対して演奏の指導を行う予定である。

また、東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成とまちの魅力向上を目

指して、多世代交流をテーマにホールでイベントを実施する予定である。

スペインセーリングチームが逗子マリーナで事前キャンプを実施するに当たり、昨年９月には逗子市・スペイン王立セーリング連盟・株式会社リビエラの３者で協定を締結した。８月 12 日（月・祝）には、市立体育館において、スペインセーリングチームと市民との交流会を計画している。日本文化を通じた交流を図るため、盆踊りをメインに実施する予定であり、ホール指定管理者及び市立体育館指定管理者と協議中である。

ホールの整備事業について、依然として財政状況が厳しく予算化は難しい。平成 31 年度は、建物の劣化調査及び診断を行うとともに長期的改修計画を作成することで、計画的に整備を進める足掛かりとする。また、さざなみホールのピアノのオーバーホール等も行う予定である。

＜会長＞

ただいまの事務局からの説明について、質問・意見等はあるか。

基本的には昨年度同様にゼロベースで、イベントは市民主体で動いていく形となる。逗子市文化協会の動きはいかがか。

＜田中メンバー＞

昨年度と同様、全額自費で開催する予定である。

（２）逗子アートフェスティバル 2018 の報告及び逗子アートフェスティバル 2019 の方向性について

＜会長＞

次に、議題２「逗子アートフェスティバル 2018」の報告及び「逗子アートフェスティバル 2019」の方向性について、事務局から説明をお願いする。

＜事務局＞

参考資料１をご覧ください。

ZAF2018 は、10 月 12 日（金）～28 日（日）の日程で開催した。

ZAF は、市の総合計画のリーディング事業に位置付けられ、平成 25 年度から継続して実施している。平成 30 年度は、財政対策プログラムに基づき市の負担金がゼロとなり、開催について一度白紙となった。しかし、それまでの ZAF 実行委員や市民の有志が集まり、自主開催の形で逗子アートネットワーク「以下「ZAN」という。」という組織が立ち上がり、企画運営から資金調達まで一手に引き受け、開催にこぎ着けた。

ZAN のメンバーは、市内外問わず若いファミリー層を中心に 130 人程度集まり、コミュニティを形成した。資金調達については、クラウドファンディングを実施し、目標額 200 万円に対して 207 万円（267 件）集まった。

企画数は 37 企画、そのうち自由企画は６企画であった。来場者数は約 23,000 人であるが、姉妹企画である「NIGHTWAVE 光の波プロジェクト in 逗子」の来場者数が 16,500 人程度であったことが大きい。

2020 年以降、自治体財政が縮小することが推測される全国的な課題に対して、市民自らが予算を捻出してイベントを実施するといった新しい手法で、ZAF2018 は開催された。

昨年４月に ZAN が発足し、「いまだカオス」というキャッチコピーも全員で決めた。

ZAF2018 では、「MIRRORBOWLER」「ぼくたちのうたがきこえますか」「アートフォリオ展」「シティ・キャンバスプロジェクト」「コドモーション」「Beach Candle Yoga」「逗子アート移住ツアー」「NIGHTWAVE 光の波プロジェクト in 逗子」「自由企画（６企画)」「池子の森の音楽祭」等、様々な企画が実施された。

ZAF2018 の傾向として、多世代の市民が作品制作に参加する「参加型」の企画が多かった。また、逗子銀座通り商店街を巻き込む等、近隣の協力を得て実施する企画が増えてきた印象がある。従来は、プロのアーティストの作品を鑑賞する企画が多数であったが、ZAF2018 では市民とアーティストとが交流しながら、市民も創り手となる作品づくりができた。暮らしの中に ZAF が根付いてきている印象もある。

ZAF2019 の方向性については、ZAN のメンバーで２月 17 日（日）にキックオフミーティングを開催し、60 人程度の参加があった。３月 30 日（土）にも全体ミーティングを開催する予定で、ZAF2019 に向けて動き出している。

＜会長＞

ただいまの事務局からの説明について、質問、意見等はあるか。

昨年度までの ZAF と大きく変わった印象がある。市民が楽しむというよりは、市外からの移住促進が推進されている印象があったが、実績や感触はいかがか。

＜事務局＞

ZAN は Facebook 等の SNS でつながり、若い人の参加が多かった。

また、クラウドファンディングの返礼品の一つとして「逗子アート移住ツアー」を実施したことは、移住につながる取組みであり、うち１件が移住につながっている。

＜会長＞

行政として、移住者に向けた税制上又は居住の提供等のバックアップはあるのか。

＜事務局＞

本市では、そのような制度はないが、移住者がより増加するようシティプロモーションを行っている。

＜田中メンバー＞

移住者の増加を目標とするならば、ZAF のようなイベントは辛抱強く継続することが必要である。

＜山口メンバー＞

移住促進の取り組み結果として、１件あるだけでも効果があったと思う。

マスコミにどの程度取り上げられたのか、また取り上げてもらうよう努力したのか。

＜事務局＞

市からはプレスリリースを３件発信した。パブリシティとしては、日本経済新聞の湘南

版、神奈川新聞の地域版（４回)、タウンニュース逗子・葉山版、はまかぜ新聞、逗子葉山経済新聞、テレビ神奈川、J:COM デイリーニュース、湘南ビーチ FM（７回）等、数多く取り上げられた。

＜副会長＞

市民以外の参加者は、どの程度あるのか。目的、期限、対象が明瞭でないように思える。

＜事務局＞

ZAF2019 キックオフミーティングでは、居住地の情報を取らなかったが、市内外半数ずつ参加しているような印象であり、市外の人も ZAN に興味を持っている。

来場者について、「池子の森の音楽祭」は市民が多かった印象である。「逗子海岸映画祭」と同様、市外への発信力は大きかったと思われるが、意外にも市民の来場が多かった。市民が自然あふれる池子の森の新たな楽しみ方を発掘し、地域で楽しむ喜びを感じる２日間になったと思う。市民が楽しむ様子を見て市外の人が憧れ、移住してくるといった流れにしたいと、ZAN では共有している。

＜会長＞

逗子は高齢者が多いので、広報媒体として広報ずしは大きな効果があると思われるが、ZAF2018 の来場者は広報ずしと SNS のどちらを見て来場している様子であったか。

＜事務局＞

広報ずしについては、広報ずし 10 月号で巻頭特集を組んだ。しかし、各企画の紹介というよりも、ZAF の企画を創り上げている ZAN メンバーに注目した記事であったので、広報ずしを見て来た来場者はそれほど多くなかったのではないか。むしろ、SNS やガイドブック等の方が企画の詳細が分かるため、来場のきっかけになったと思われる。

広報ずしの狙いは、市内外の多くの人が ZAF を通して市の文化振興を担っているムーブメントを、市民に対して周知するものであったと言える。

「池子の森の音楽祭」は、今年度から入場料を有料とした。ただし、高校生以下及び高齢者（65 歳以上）は無料で、結果として有料の来場者は全体の約半数である 1,000 人程度と、子どもや高齢者が多く来場したイベントとなった。２日目になると、芝生にテントを張って楽しむ等、市民に愛されたイベントであった。米海軍第七艦隊音楽隊が出演したこともあり、池子住宅地区の居住者が 100 人程度来場し、日米交流という一つの目的も達成されたと言える。

＜会長＞

方向性が明確であり、目的志向の ZAF になったと感じられる。行政も、できる限り支援していただきたい。

＜事務局＞

場所の提供や事務局機能等、できる限りの支援はしていく。また、ふるさと納税と ZAF との連携を検討していきたいと考えている。

＜会長＞

湘南ビーチ FM では、どのような連携があったか。

＜森川メンバー＞

ZAF については、多くのゲストに番組で話していただいた。ZAN メンバーの中には初めて話す人もいたが、皆しっかりとした意思を持っていた。また、コンシェルジュも楽しそうに参加していて良かった。最近、湘南ビーチ FM は地元以外のリスナーも増加してきて、特に ZAF の紹介をすると反応が良く、実際に茨城県から参加した人もいた。

＜副会長＞

葉山芸術祭は、参加すると公共施設の利用料が半額になる。今は財政難で厳しいと思われるが、今後 ZAF に参加する人に向けたモチベーションアップの手法として良いのではないか。

＜山口メンバー＞

ZAF は、逗子の知名度を上げて居住者を増やすことがテーマの一つであり、そのためには文化スポーツ課を超えた連携もあると思うが、庁内の連携が取りやすい体制にあるのか。

また、日頃から記者と連携を取っていると、記事を作成してもらいやすくなる。

＜事務局＞

プレスリリースの所管は企画課広聴広報係であるが、現在は各所管から報道機関に直接プレスリリースを発信する方法となっている。また、庁内プレスリリースの発信先は決まっている。

＜会長＞

やはり、影響力のある新聞社に取り上げてもらいたい。個人のチャンネルを活用することを考えても良いと思う。

＜山口メンバー＞

東京 2020 オリンピック・パラリンピックについて、逗子で事前キャンプを実施しているのはスペインセーリングチームであるが、葉山ではイギリスセーリングチームが事前キャンプを実施している。それらの情報交換はしているのか。

＜事務局＞

近隣市町との情報交換は行っている。

＜山口メンバー＞

京浜急行電鉄の新逗子駅が逗子・葉山駅に改名されることに伴い、葉山と連携してプロモーションできたら良い。葉山や鎌倉のネームバリューを上手く利用したい。

＜会長＞

他地方の人と話すとき、鎌倉や葉山は知名度があるが、逗子の知名度はない。

アートイベントを通じて逗子を PR することは絶好のチャンスであるので、ぜひ行政も積極的な後押しをしてほしい。また、新聞社に対して定期的に ZAF に関する記事を書いてもらうよう、お願いしても良い。

（３）その他

＜会長＞

続いて、議題３「その他」について、何か意見を述べたい方はいるか。

＜事務局＞

10 月 13 日（土）に開催された「まちづくりネットワーク会議」の報告を、山口メンバーと長坂メンバーにお願いしたい。

＜山口メンバー＞

市ホームページの企画課企画係のページに会議概要が掲載されているので、全体の流れについてはそちらを見てほしい。

議題は、１つ目が市長による財政状況の説明、２つ目が平成 29 年度総合計画進行管理の結果の報告及び平成 30 年度住民自治協議会の活動報告、３つ目が「まちづくりネットワーク会議」のメインテーマである、連携に向けた情報共有（意見交換）である。３回目の参加であったが、グループの座席配置も含めてこれまでで最も「ネットワーク会議」の趣旨に沿っていたように感じた。ただし、テーマ２「各計画と福祉プラン等との連携」は福祉がテーマであり、福祉関係の人が各グループに分かれてディスカッションしたにも関わらず、健康や運動との結びつきは薄かった。

テーマ１「５本の柱（基幹計画）内の連携」では、それぞれの柱ごとにグループを分けて（山口メンバーは、「共に学び、共に育つ「共育（きょういく）」のまち」）情報共有した。初対面の人が多く、同じ柱の中で活動する人同士、もっと顔を合わせる機会があっても良いのではないかといった話になった。

テーマ２「各計画と福祉プラン等との連携」では、ランダムにグループを作り、福祉関係の人が各グループに分かれて進行した。アウトリーチ活動による伝統芸能の提供について説明したが、高齢者施設でのアウトリーチ活動については、あまり理解されないようであった。

テーマ３「各計画と住民自治協議会との連携」では、アウトリーチ活動と地域貢献とがあまりつながらなかった。

アンケートには、「まちづくりネットワーク会議」のメンバー、住民自治協議会のメンバー、市長、市議会議員は全員市民であるが、市職員の中で逗子市民は３割にとどまると聞いたので、市民意識を共有する姿勢を明確にするために、各職員が担当地域を持つような制度があったらどうかと記入した。ふるさと納税制度を利用して、積極的に逗子市に納税しても良いと思う。また、懇話会・協議会間で意見交換・意見共有ができれば、さらなる連携が図れるのではないかと記入した。市民メンバーは他の懇話会・協議会にオブザーバーとして参加できるような仕組みがあっても良いと思う。

＜長坂メンバー＞

市長による財政対策プログラムの報告は素晴らしかった。

私は市外で活動することが多いが、市外の人は逗子に対しての評判が良い。シティプロモーションをもっと推進していけば、人口が増えるのではないか。

仕事柄確定申告の内容をよく見るが、今年はふるさと納税制度を活用する人が多かった。

基幹計画及び個別計画の評価は全体的にＢで、まずまずの結果であった。ただし、市民協働に関わる計画の評価は相対的にＣが多く、市民協働の認識はまだ薄いのではないか。まずは、市民に市民協働（ZAF 等）を知ってもらうようプロモーションを図るべきである。

「まちづくりネットワーク会議」は、異なる価値観のメンバーと意見交換できる貴重な場である。逗子は、潜在的なポテンシャルが高いと思うので、さらなる周知を図りたい。

行政の予算がなくても、花火大会や ZAF が実施できたことはとても素晴らしいことで、世界中に波紋を広げるような功績である。

＜会長＞

ただいまの両メンバーからの説明について、質問・意見等はあるか。

達成感というのは、重要なファクターである。そのためには市民参加型が重要である。

＜長坂メンバー＞

先ほど、ZAF2018 は市民参加型の企画が多かったと聞いたが、とても良いことである。

＜会長＞

アウトリーチ活動はどのようか。

＜長坂メンバー＞

アウトリーチ活動についても、大変評判が良い。

＜山口メンバー＞

「逗子市文化振興基本計画策定・推進会議」でのアウトリーチ活動は、ホールが行うアウトリーチ活動に限るが、その他の団体等でもアウトリーチ活動は盛んである。

元々は、ホールを活発に利用して市民に知ってもらい、市民の芸術性を高め、ひいてはホールを再び利用してもらうためのアウトリーチ活動であり、アウトリーチ活動それ自体が主目的ではない。

＜事務局＞

続いて、「逗子フォト」事業の進捗について説明する。

所管である企画課広聴広報係に確認したところ、２月１日現在公開されている写真は 1,181 枚である。また、市民からの登録申請については、13 人から 300 枚以上の写真が集まっている。「逗子フォト」に登録されている写真の利用申込みもこれまでに７件ある。

＜会長＞

ただいまの事務局からの説明について、質問・意見等はあるか。

「逗子フォト」の写真を利用できることは知らなかった。

＜事務局＞

市ホームページ上では、登録申請や利用申込みの案内が掲載されている。

まだ5,000枚以上の写真が登録されていないが、順次登録していく。

＜副会長＞

今年の流鏑馬のパンフレットに「逗子フォト」の写真を活用した。

＜会長＞

他に質問・意見等のある方はいるか。

２　閉　会

＜事務局＞

次回の会議については改めて連絡するが、平成30年度の事業進行管理について意見を聞く予定である。

以上で「平成30年度第２回逗子市文化振興基本計画策定・推進会議」を終了する。

◇◇◇終了◇◇◇